



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 263 号

2026/ 3

RACDA 設立 30 周年記念都市交通フォーラム 大都会・岡山都市圏の理想の交通

■RACDA 設立 30 周年記念「都市交通フォーラム 2026」は去る 2/11 に山陽新聞さん太ホールで全国から約 200 名が参集し、「大都会・岡山の理想の交通 車 1 割削減、渋滞半減、公共交通 2 倍」をテーマに開催された。

■冒頭 RACDA 設立発起人のベネッセ名誉顧問 の福武総一郎氏から、ビデオメッセージ「ラクダ設立の思い」が語られ、逢沢一郎(新交通システム推進議連会長)・小嶋光信(岡山電気軌道(株)社長)・中尾正俊(宇都宮ライトレール名誉技術顧問)の路面電車・地方鉄道再生の立役者にご挨拶いただき、今までの「街を元気にするため、公共の交通を楽にする運動」の方向性を確認した。

■次に 2024 宇都宮ライトレール、TSMC 進出での渋滞対策の熊本の事例が報告された。

基調講演 1 矢野公久 氏 (宇都宮市建設部長、LRT 担当)「宇都宮・ライトライン誕生までの軌跡」

基調講演 2 太田恒平 氏 (トラフィックブレイン代表取締役)「車 1 割削減、渋滞半減、公共交通 2 倍を熊本から岡山へ」

提案 岡将男(RACDA 会長)「岡山都市圏の公共交通分担率を 15%にする方策」

■続いての討議では、「岡山から日本の都市公共交通を立て直そう」とのテーマで、参加された自治体・学識など 10 名の方々に、1 人 3 分のショートスピーチをしていただいた。まずはたまたま同級生のお三方に話していただいた。

黒石健太郎(瀬戸内市長)氏からは、瀬戸内市が取り組む JR 増便・バス増便・観光連携、JR 駅周辺は人口増加。

富永隼行(熊本県企画振興部長)氏からは、熊本での太田恒平氏提案の合理性とその展開、JR 路線への投資。

北川由佳(岡山市政策局長)氏からは、国交省での運輸局・本省での経験と、自治体が公共交通に取り組む経緯。

■全国から交通まちづくりの専門家たちも参集されて、路面電車や地方鉄道再生と地方都市活性化を目指した LRT 推進運動が、なぜ停滞し、地方都市を十分に元気にできなかったのか、反省点を浮き彫りにし、特に鉄道への投資を議論した。

原田昇(豊田都市交通研究所長)氏からは、PT(パーソントリップ調査)は「色男=金も力も無し」の反省から、方向性について。

宇都宮浄人(関西大学教授)氏からは、富山県地域交通戦略では「効率からウェルビーイング」「公共交通サービスへの投資」。

金山洋一(富山大学特別研究教授)氏からは、運行頻度の低い鉄道はただの建物、人口増やすには鉄道の運航頻度と。

■最後に、宇都宮でも大きな課題となった、市民合意づくりについて

今尾恵介(地図評論家)氏からは、「路面電車は民主主義の学校」と 2001 年に書いた、宇都宮の合意形成の快挙。

岡山一郎(山陽新聞論説委員)氏からは、「送迎人生」アンケートのすごい反応に合意形成のヒント有り。

矢野公久氏から、合意作りは各地様々で、積み上げて築くことと、全国から連携して集まるのはいいこと。

■RACDA ホームページにパワポ資料・動画をアップ。裏面には当日資料(500 円で頒布中)の RACDA 提案を掲載。



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索





■「大都会・岡山都市圏の理想の交通」

(車1割削減、渋滞半減、公共交通2倍)

■岡山都市圏全体の交通最適化、公共交通分担率15%目標
現状北区12%、中区・東区8%、南区4%、倉敷市4%の倍増を目標とする

■岡山市のバスルート再編を前提として、岡山都市圏全体に広める、瀬戸内市、総社市、備前市、赤磐市、玉野市、浅口市、福山市、笠岡市、高松市などにも波及

■JR普通列車のパターン化と増便、渋滞対策のキモ
山陽本線・岡山一倉敷15分毎(別に伯備線あり)

120便に増発、毎時2本の快速復活と自動車からの誘導策
岡山県南・福山都市圏の「中央本線」、東西方向の通勤通学各駅から南北方向の通勤通学バス

撫川に新駅設置し1000台規模の立体P&R駐車場

瀬戸大橋線・岡山一茶屋町間の普通15分毎に増発

津山線・岡山一法界院の30分毎に増発

■吉備線LRT化の再構築(LRT案・電化案・ハイブリッド案)
電化し加減速能力高、まず2駅新設で、同時間で利便性が向上
or 城端線・氷見線用のハイブリッド高性能車両導入も一案

吉備線全線30分毎、備中高松まで15分毎に増発

行き違い施設増加で、7.5分パターン化まで可能

電車なら当面URARAなど乗入で、赤穂線と直通運転

将来新型70%低床車両で100km/h運転可能(都心乗入)

岡山一備前三門は併用軌道新設を中止(工期費用大幅圧縮)

既存ホームを最大限活用、電車・ハイブリッドでも嵩上げ必要

バス再編一宮駅へのバス乗入、備中高松・足守コミバス新設

吉備路観光は各駅からコミバス、造山古墳の結節点化

岡山スマートIC・岡山IC・総社IC間を無料化(高速誘導)

岡山西バイパス4車線立体化を急ぐ(渋滞対策)

■赤穂線高度化計画

赤穂線・長船15分毎の増発(東岡山一長船折返し追加)

城東高校駅新設、工場群のある北長船駅新設(長船駅止め延長)

赤磐市中心部と平島・八日市のバスに接続する長船駅と長船工場群巡回コミバスの新設、岡山市外郭環状バス線新設

■瀬戸大橋線高度化計画と四国新幹線

四国新幹線は、瀬戸大橋線完全複線化による中速新幹線として、
ほくほく線160km 運転をモデルに一部新線・トンネルで岡山・松山80分。(四国側はフル規格を要望)

瀬戸大橋・宇多津駅・児島駅は既に新幹線対応済み

大元駅・西市駅・妹尾駅の交通結節点能力の拡大、コミバス新設
大福新駅(国道2号線渋滞ポイント)500台規模のP&R

■津山線都心部高度化

津山線・吉備線の直通運転可能(以前6便程度設定)

備前原駅・玉柏駅のP&R交通結節点化

■水島臨海鉄道の電化・増便・山陽本線乗入

岡山・瀬戸内・赤磐などからの通勤需要掘り起こし、

■JR線の大増便に応じたバス幹線網の大増便が必要
全体の投資計画設定、新規バスルートは3か月間無料

■副都心にランデブー拠点整備

岡南バスタを新設し、交通結節点強化。旭東方面バス路線新設
水島・玉野方面の通勤通学需要の掘り起こし

■岡山市の大学生バス無料化 or ハレカハーフ

&岡大方面深夜バス増便(自転車飲酒規制強化対応)

ハレカジュニアハーフ、クラブ活動の学外対応策

送迎人生と女性たちの負担軽減を要望

「高校生を無料化」した市町村に交付税措置など国に要望

■岡山国道事務所のスマート通勤プログラムを基盤に

岡山県南都市圏渋滞対策チームを結成、データ整備

GTFISとQGIS活用、オープンデータで交通計画・都市計画

公共交通の管制センターの設立、道路と一括管理

渋滞対策のため、都市鉄道にも社会資本整備総合交付金活用

(電車バス大増便にも道路投資と同様の財源確保必要)

■四国新幹線予算の瀬戸大橋線複線化への活用

(上記現状の電車バス運行頻度図を元にRACDAの試案)